

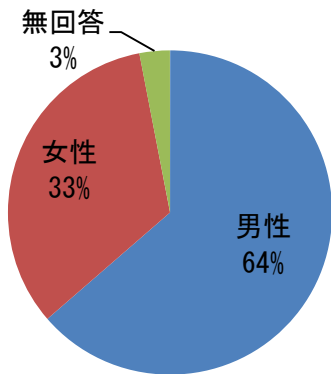
JAXA タウンミーティング in 岡山県生涯学習センター 開催報告

平成 27 年 1 月 24 日、JAXA タウンミーティング in 岡山県生涯学習センター「宇宙を探る！宇宙から探る！」を開催しました。今回は、JAXA が取り組んでいる人工衛星による地球観測データの様々な利用や、「はやぶさ 2」について話題をお伝えし、会場の参加者と活発な意見交換がなされました。

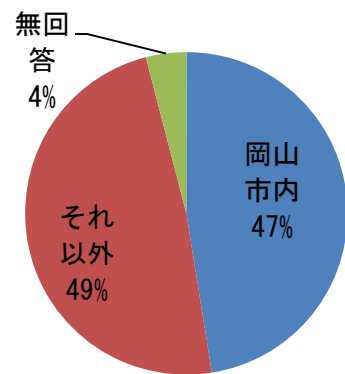
- 開催日時 平成 27 年 1 月 24 日（土） 14:00～16:30
- 会場 岡山県生涯学習センター 情報・創作棟 2 階 大研修室
- 参加者数 139 人
- 登壇者
 - ・岩本 裕之 JAXA 衛星利用推進センター ミッション企画室長
「身近になった衛星利用～ビジネスからアートまで～」
 - ・吉川 真 JAXA はやぶさ 2 ミッションマネージャ
「はやぶさ 2」～太陽系天体探査への新たな挑戦～
 - ・加藤 善一 JAXA 理事
- 進行コーディネーター
JAXA 広報部長 上垣内 茂樹

アンケート回答者の属性（有効回答数：99）

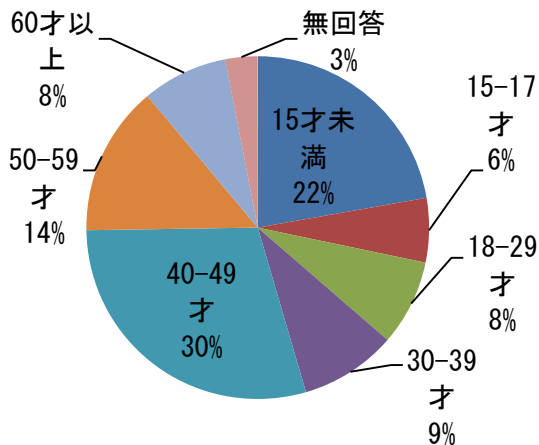
1. 性別



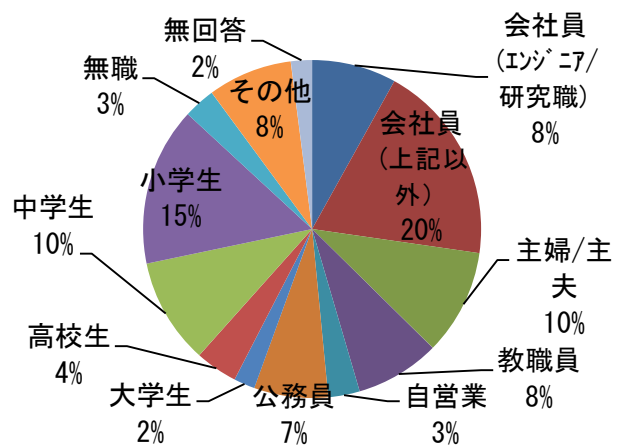
2. 居住地



3. 年齢



4. 職業



当日出た主なご意見（意見投稿、アンケート記入分も含む）

「身近になった衛星利用～ビジネスからアートまで～」

- ・ 衛星を使って生態が分かっていない動物の観測や、渡り鳥による鳥インフルエンザの危険性を予測できないか。
- ・ 日本として実用だけでなく学術研究面でも先端の研究をしてほしい。
- ・ 生徒へ授業する際に客観的データとして活用したいと思う。
- ・ 具体的なイメージはまだだが、会社として利用したいと感じた。
- ・ 放射能の汚染状況は分からないか。
- ・ 自然災害（とくに土砂災害）対応がまだまだ遅く感じる。
- ・ アジアの農業に関する仕事をしており、開発途上国の農業生産の向上に利用できるのではと考える。
- ・ 衛星で地上用の太陽光発電ができれば良いと思う。
- ・ 作物によって土壌の状態を知る必要があるが、衛星を使って土壌の状態が分かるか。
- ・ 地表や海底の変化をリアルタイムで観測できれば、地震や噴火の予知、避難指示などにつながるできないか。
- ・ 宇宙に関する情報をビジネス、教育など自分の生活に密着して利用できることに興奮した。
- ・ 様々なデータを有効に活用できるように、どのような情報がいくらくらいなのかをもっとPRしてもいいのではと思う。

「はやぶさ2」～太陽系天体探査への新たな挑戦～

- ・ はやぶさ応援のライセンスをフリーにしてはどうか。ライセンス収入は減るが協賛企業が増え広報効果は上がる。
- ・ 小惑星探査の目的と意義が理解できた。
- ・ 日本の宇宙開発の細やかさや開発費用に対する費用対効果の高さに驚いた。ますます極めてほしい。
- ・ 宇宙は難しいと思っていたが、そんなことはなくとても面白いと思った。
- ・ 難しすぎて分からないが、未来に向けての何か発見につながっていく挑戦が少しわかってよかった。もっと興味を持ってみたいと思う。
- ・ 衝突装置運用のようにリスクも高く技術的に難しいことに挑戦しようとしていることがすばらしい。
- ・ 具体的にサンプル採取などの手順を詳しく知ることができ、はやぶさの教訓がどのように生かされているか知ることができた。
- ・ 探査だけでなく宇宙の掃除もできるといいと思う。
- ・ はやぶさで宇宙事業に大変興味を持ったので、はやぶさ2もとても応援している。世界初を目指してほしい。

タウンミーティング、その他について

- ・ 宇宙開発にこれだけの国家予算をつぎこみ、それは国民に還元されているといえるのか。
- ・ 広報素材の商用利用について、有償である意味がわかりません。有償であることで広報の機会を失っていると思う。

- ・ SELの助成金がなくなり、SELが単なるお手伝い要員になろうとしている。宇宙教育センターの理念に照らせば、イベントを立案し実行するSELを育て、維持するべきではないか。
- ・ 文系の人に向けて宇宙開発の支持者を増やすための具体的な事業や取組はあるか。
- ・ スマホからの質問はネットで回答がほしい。
- ・ 宇宙を題材にした教育実践の中で、もっと人文社会学領域と自然科学領域との横断的な実践を強く打ち出してほしいと思う。
- ・ タウンミーティング会場で JAXA のグッズ販売をしてほしい。寄付を募るよりお金が集まりやすい。
- ・ 子ども向け、初心者向けのタウンミーティングをしてほしい。
- ・ もっと広く日本の宇宙開発の技術力、独自性、コストパフォーマンスの高さの周知を図り、賛同者を増やすよう頑張ってもらいたい。
- ・ ぜひまた実施してほしい。
- ・ 当日ではなく事前にネット等で質問できたらうれしい。
- ・ 難しい科学技術は理解できなくても、そこに向けるプロジェクトメンバーの人間としてのストーリーも伝えてもらえたらいいと思う。

